



導入事例

東京都江東区立亀高小学校

PC教室での発表利用



江東区小学校教育研究会情報教育部では、「情報集収力・情報活用能力・情報発信力」の育成を通じて確かな学力と豊かな感性を育てる授業展開について研究を進めています。



✓ 現代的課題テーマに国語・社会・総合で

新学習指導要領において、「総合的な学習の時間」では、各教科で身に付けたつからの活用が求められています。授業者の鈴木優一教諭はこれまでに、国語科で討論やインターネットを使った調べ学習、グラフや表などの資料を引用して書く学習などを、社会科において日本の食料生産や工業生産、情報化した社会についての学習を終えています。

また、社会的な出来事に目を向けさせる目的で、日常的に意識して新聞やニュースを取り上げており、「総合」の時間では、これらの各教科で身に付けた力を活用する場として、「TPP参加」や「自転車の車道走行」、「消費税率アップ」をテーマとした討論会を行いました。最初の討論のテーマは「TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)」の日本参加についてです。「私たちがTPP参加する理由は3つあります。ひとつは、日本の自動車は外国に人気だということです。日本輸出

上位10品目の移り変わりという資料を見てください。資料によると、1990年から2010年まで、日本の自動車の輸出量は1位です。TPPに参加し、自動車をどんどん輸出したほうがいいと考えます。」

✓ 説明に合わせて提示資料に書き込み

1グループ5人で、そのうち1人は、教卓上のPCで主張内容に合わせた資料を提示。発表者の説明に合わせて液晶ペンタブレットを使って提示資料に書き込みします。発表する資料内容、その説明方法など、グループ内で発表内容の事前準備がされている様子が良く分かります。

対して反対派は、人件費が経営の重荷になり、倒産したアメリカン航空の記事を資料として提示。「TPPに参加すると価格引き下げ競争が起こり、農家の人が収入を得て生活するための費用である人件費が下がり、倒産、不景気にある」と反対の理由を発表しました。





一通り双方の主張が終わると、お互いの質問タイムです。相手に対する質問内容の相談や、相手からの質問内容を想定、その回答についてグループ内で討議を進めます。

反対派が賛成派に対して「不景気になると円高になる。円高が進むと輸出しても利益が得られないのでは」と質問すると、「TPPにより関税がかからなくなるため、自動車を外国にこれまでより安く提供できるから円高になっても大丈夫」と対応。それに対して反対派は「自動車の関税は15%。円高の影響のほうが大きい。その主張は納得できない」と食い下がります。双方のグループはこれらの質問事項を踏まえた上で、最後の主張を行いました。

聞き手である2グループ以外の児童は、「討論会判定シート」で、判定基準に従って3段階で評価。評価基準は「資料はわかりやすかったか」、「なるほど、と思えたか」、「相手の主張を上手に取り入れていたか」など。これらの評価も踏まえ、聞き手は最後に「賛成か、反対か」を、PC管理システム「スカイメニュー」のアンケート機能で投票。投票内容は、すぐに前方スクリーンに表示されます。結果、TPP参加に「賛成」が55%（11人）、「反対」が20%（4人）となりました。その他、「自転車の歩道走行」と「消費税率アップ」など、クラス全員が今日的な課題について賛成派、反対派に分かれ、討論しました。

✓書き込みでデジタルの弊害を抑制する

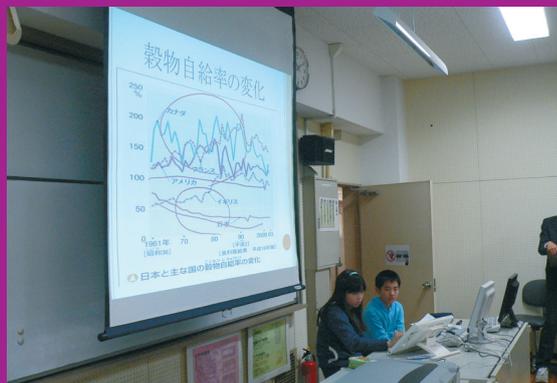
鈴木教諭は2011年5月から通常授業で液晶ペンタブレットを活用しており、プロジェクターで大きく提示した資料や操作や書き込み

などを教師用操作で使っています。液晶ペンタブレットは電磁誘導方式コードレス&電池レスで、読み取り認識が速いため、書き込みがスムーズなことから、直感的に操作できて使いやすいと言います。今回、討論会をPC教室で行ったのには、いくつか理由があります。「児童の表現活動を充実させるために、主張を裏付ける資料探しをより真剣に行う必要があります。そこで、討論会資料はパワーポイント(以下、PPT)で作成することで、資料探しや資料を活かしたPPT作りに真剣に取り組ませたかったのです。PC教室ならば、新聞や資料集からのスキャナ読み込みなどの作業と同時進行でPPTを作成できます。討論会当日は、アンケートもすぐに集計、結果を提示できます。」と話します。

資料は日常的な新聞記事の紹介や資料集が中心で、中にはそれに飽き足らずインターネットで検索して資料を探す児童もいました。これも、インターネットを自由に使える環境で可能になるメリットの1つと言えます。

討論会では液晶ペンタブレットを児童が使い、発表に合わせながら資料に書き込むことができるようにしました。画面に直接ペンで手書きができるので、ノート感覚で利用できます。児童もすぐに操作に慣れ、発表の事前練習では、発表者とPPT提示係との間で、より分かりやすい書き込みやタイミングなどについて話し合われる場面が見られました。

鈴木教諭は今回の取り組みを入口とし、表現活動を通じた学力向上に資するICT活用に今後も取り組んでいく考えです。



東京都江東区立亀高小学校

<http://www.koto.ed.jp/kametaka-sho/>

昭和52年、小名木川のほとり江東区砂町の地に開校。

人権尊重の精神や豊かな人間性を培う教育を推進し、自らの課題や目標に真剣に取り組む、人間としてよりよい生き方を形成しようとする子供の育成をめざします。